

2020年8月13日

各位

会社名 株式会社 ブイキューブ
 代表者名 代表取締役社長 間下 直晃
 (コード番号: 3681 東証第一部)
 問合せ先 CFO 経営企画本部長 山本 一輝
 (TEL. 03-5475-7250)

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最新の業績動向を踏まえ、2020年6月1日に公表いたしました2020年12月期(2020年1月1日～2020年12月31日)の連結業績予想及び、2020年2月12日に公表いたしました配当予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年12月期通期連結業績予想の修正(2020年1月1日～2020年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	7,201	575	479	535	22円21銭
今回修正予想(B)	7,201	708	665	623	25円76銭
増減額(B-A)	0	135	186	88	
増減率(%)	0.0	23.1	38.8	16.4	
(参考)前期実績 (2019年12月期)	6,369	△284	△341	34	1円43銭

(注) 今回修正予想(B)において、1株当たり当期純利益は2020年12月期第2四半期決算における株数で算出しております。

(修正の理由)

2020年4月に政府より発令された緊急事態宣言は5月に解除されましたが、新型コロナウイルスの感染症は足許での拡大をみせ、第2波への強い懸念は払拭されず、今後の拡大や長期化を前提とした行動自粛や新しい生活様式への変化は、当社グループの経営環境に引き続き大きな影響を与えております。

このような経営環境の下、対面による商談・物理的な設置が必要となるテレキューブ事業等は当初計画より遅延しているものの、テレワークが社会に認知されたことにより当社のWeb会議事業が伸長した他、あらゆる業界においてイベントのオンライン化需要が急増したことに伴って当社が提供するオンラインセミナー事業が急成長いたしました。この結果、2020年12月期第2四半期決算の営業利益は6月1日に上方修正した予想を上回る結果となりました。

更に、当社の注力事業であり、緊急事態宣言により延期されていた製薬業界向けWeb講演会の6月中旬からの再開に加え、オンライン化が更に推進される傾向が見込まれる他、ウィズコロナ・アフターコロナ時代を踏まえ、製薬業界のみならず多くの業界においてリモート化需要が大きく拡大していくと見込んでおります。

以上の2020年12月期第2四半期決算の実績や、テレワークやリモート化の需要見込みを踏まえ、6月1日に発表いたしました2020年12月期の連結通期業績予想を修正いたします。テレキューブやオンプレミス等の一部の主力事業の延期・遅延により売上高は前回業績予想のまま据え置きとする一方で、収益性

の高い主力事業の伸長を第3四半期以降も継続を見込むことにより、営業利益は更に上回る見込みです。

他方で、2020年12月期の上半期決算においてグループ間の資金決済により生じた為替差益の他、持分法適用関連会社における公共空間向けテレキューブ事業進捗を踏まえた営業外費用の見直しにより、経常利益は前回予想よりに対して上回る見込みです。

なお、第3四半期以降も新型コロナウイルスの感染の再拡大が懸念され、予断を許さない状況になっている事情等を踏まえ、今後の状況により業績予想の修正が必要な場合には速やかに開示いたします。

2. 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回発表予想	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 1.00	円 銭 1.00
今回修正予想	—	—	—	2.00	2.00
当期実績	—	0.00			
前期実績 (2019年12月期)	—	0.00	—	1.00	1.00

(修正の理由)

当社は、既存サービスの機能・品質改善や新規サービスのための開発投資に必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様へ安定かつ継続的な利益還元を実施する方針としており、連結配当性向 20%を目安とし、将来的には30%を目指して参ります。

この方針のもと、当期の期末配当金（年間配当金）につきましては、1株当たり1円を予定しておりましたが、今回の通期業績予想の上方修正を踏まえ、1株当たり2円に増配いたします。

以 上